

令和6年度 中心拠点病院の事業総括

国立成育医療研究センター アレルギーセンター



アレルギー中心拠点病院としての活動

～国立成育医療研究センター～

- **アレルギー疾患に係る医師に対する研修支援事業**
～A・B・C研修の実施について～
- **アレルギー疾患患者や家族等に対する相談事業**
～医師によるアレルギー電話相談室～
- **アレルギー疾患「治療と仕事の両立支援」取り組み**
～アンケート集計結果より～

アレルギー疾患に係る医師に対する 研修支援事業

(A研修) 成育アレルギー中心拠点セミナーの開催

- 毎月WEB開催へ（基礎・臨床の隔月）

(B研修) 小児アレルギー診療短期重点型教育研修

- 実地研修参加者に対する、より充実した研修内容を構築
(Total Allergist研修)

(CD研修) 専門修練研修

- 総合アレルギー診療エキスパート育成、臨床研究論文・学位
取得のサポート



国立成育医療研究センター
アレルギーセンター



小児アレルギー診療短期重点型 教育研修プログラム

食物アレルギー、アトピー性皮膚炎、喘息の診療に加え、
薬物アレルギー、食物蛋白誘発胃腸症などの内容も
盛り込まれた最新の知見に基づく**2週間（10日間）**
or 1週間（5日間）のプログラムをご用意しました。
(患者指導や検査等の見学と実践、
個別レクチャー、ジャーナルクラブ参加など)

実施期間 2024年6月～2025年3月

最新の知識と技術の双方を学ぶことができ大変有意義でした！

系統だったレクチャーでアレルギー診療全般を学びました。

勉強会では大量の最新論文やトピックスに触れられ、刺激を受けました！

先生方のご参加を心よりお待ちしております！

参加者（48名）にお聞きした後輩や同僚への推薦度！



* 国立成育医療研究センター
アレルギーセンター公式ホームページ（医療従事者向け）にて詳細をご確認の上、ご連絡下さい！



B研修 2024年度の刷新点

- **2週間（10日間）の研修に加え、1週間（5日間）のプログラムを準備**
全10回中、5回を5日間研修として参加者を募集
+ 予備期間に追加で2回の5日間研修を実施
- **他科医師の参加を促進**
本年度中に皮膚科、内科（消化器科）の医師がそれぞれ1名ずつ研修に参加（予定）

(本事業外)
- **海外*からの研修生**に向け、**英語のテキスト、レクチャー**を作成

* タイより5名の小児科医師（アレルギー、免疫分野のフェロー）が研修に応募

中心拠点病院におけるB研修「小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム」

	Day1	Day2	Day3	Day4	Day5
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)
9:00	外来見学			外来見学	外来見学
10:00	アトピー教室+	喘息教室+ (第4週)		食物アレルギー教室+	乳児教室+
11:00		食物負荷試験見学 または 外来見学 *負荷試験は午後 に6時前に行います。 メンターにご確認下さい。	食物負荷試験 (1名担当)		
12:00	外来見学			外来見学	外来見学
13:00					
14:00	皮膚テスト			気道過敏性試験など (第2, 4週) SLIT教室 (第1, 3, 5週)	病棟/ミニレクチャー
15:00		食物負荷 機室時診察	食物負荷 機室時診察		
16:00	ガイダンス(メンター)	病棟/ミニレクチャー /負荷試験予習 (チーム回診)	病棟/ミニレクチャー	病棟/ミニレクチャー (チーム回診)	ヒアリング(研修 担当) 16:00- 回診
17:00	16:15-回診	16:15- 輪読会	16:15- 病棟カンファレンス		16:15- ジャーナルクラブ

	Day6	Day7	Day8	Day9	Day10
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	(8:30チーム回診)	(8:30チーム回診)	(8:30チーム回診)	(8:30チーム回診)
9:00				外来見学 初診回診	
10:00		喘息教室+ (第4週)			
11:00	食物負荷試験 (2名担当) または 外来見学	食物負荷試験 (2名担当) または 外来見学	食物負荷試験 (2名担当)		食物負荷試験 (2名担当)
12:00					
13:00					
14:00	皮膚テスト			気道過敏性試験など (第2, 4週) SLIT教室 (第1, 3, 5週)	食物負荷 機室時診察
15:00		食物負荷 機室時診察	食物負荷 機室時診察		
16:00	ガイダンス(メンター)	病棟/ミニレクチャー /負荷試験予習 (チーム回診)	病棟/ミニレクチャー	病棟/ミニレクチャー (チーム回診)	ヒアリング(研修 担当) 16:00- 回診
17:00	16:15-回診	16:15- 輪読会	16:15- 病棟カンファレンス		16:15- ジャーナルクラブ



2週間 (10日間,従来型) タイプ

9-17時 研修必須

月・火・木・金
疾患別初診
教室参加後に本診

総合アレルギー科行事

休憩

食物アレルギー教室

毎週木曜日、
第2火曜日、第3月曜日 10:00

消化管アレルギー
初診診察 (教室なし)

第1,3火曜日
水曜日

喘息教室

第4火曜日 10:00

蕁麻疹・薬剤アレルギー
初診診察(教室なし)

第1,3火曜日

SLIT教室

第1,3,5木曜日 13:30

アトピー性皮膚炎教室

第1,2,4月曜日 9:45

乳児教室

毎週金曜日 10:00

中心拠点病院におけるB研修「小児アレルギー診療短期重点型教育研修プログラム」



	Day1	Day2	Day3	Day4	Day5
	月 日	月 日	月 日	月 日	月 日
	月	火	水	木	金
8:00	カンファレンス	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)	(8:30 チーム回診)
9:00	外来見学			外来見学	外来見学
10:00	アトピー教室+ (第1, 2, 4週)	喘息教室+ (第4週)		食物アレルギー教室+	乳児教室+
11:00		食物負荷試験見学 または 外来見学 + 負荷試験は午後に6時間前に行います。 メンターにご確認下さい。	食物負荷試験 (1名担当)		
12:00	外来見学			外来見学	外来見学
13:00					
14:00	皮膚テスト			気道過敏性試験など (第2, 4週) SLIT教室 (第1, 3, 5週)	病棟/ミニレクチャー
15:00		食物負荷 機室時診察	食物負荷 機室時診察		
16:00	ガイダンス(メンター)	病棟/ミニレクチャー /負荷試験予習 (チーム回診)	病棟/ミニレクチャー	病棟/ミニレクチャー (チーム回診)	ピアリング(研修 担当) 16:00- 回診
16:15	16:15- 回診		16:15-		
17:00		輪読会	病棟カンファレンス		ジャーナルクラブ

従来の10日間から、5日間の研修プログラムを試験運用開始

(複数ある対面式レクチャーについて、開始時に希望を確認し、特に重点的に研修を受けたい項目を選択して実施)

レクチャー内容は毎年更新

- ・ 薬剤アレルギー/消化管アレルギーなど追加

9-17時 研修必須
総合アレルギー科行事
休憩

月・火・木・金
疾患別初診
教室参加後に本診

食物アレルギー教室	毎週木曜日、 第2火曜日、第3月曜日 10:00	消化管アレルギー 初診診察(教室なし)	第1,3火曜日 水曜日
喘息教室	第4火曜日 10:00	蕁麻疹・薬剤アレルギー 初診診察(教室なし)	第1,3火曜日
SLIT教室	第1,3,5木曜日 13:30		
アトピー性皮膚炎教室	第1,2,4月曜日 9:45		
乳児教室	毎週金曜日 10:00		



2024年度実績

- 小児科医師**16名**、小児科以外* **2名**、計**18名**が参加（予定含む）。

*消化器内科、皮膚科

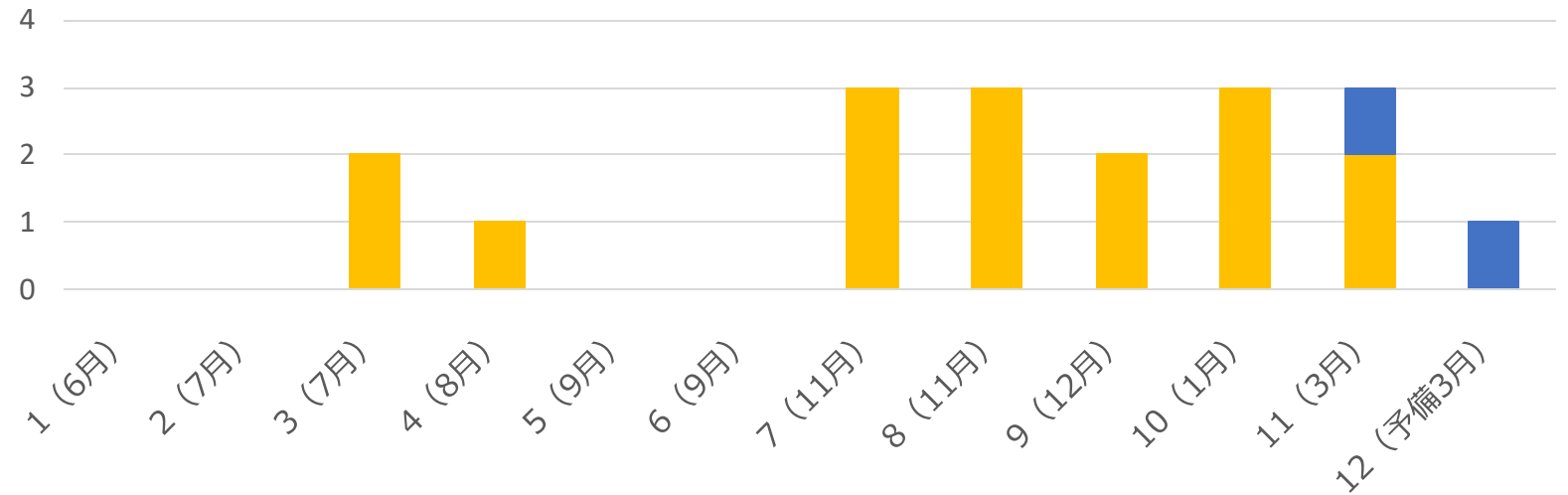
* 都道府県拠点病院からの参加は5名。

* 3月迄のデータ（参加予定者のデータも含む）から集計

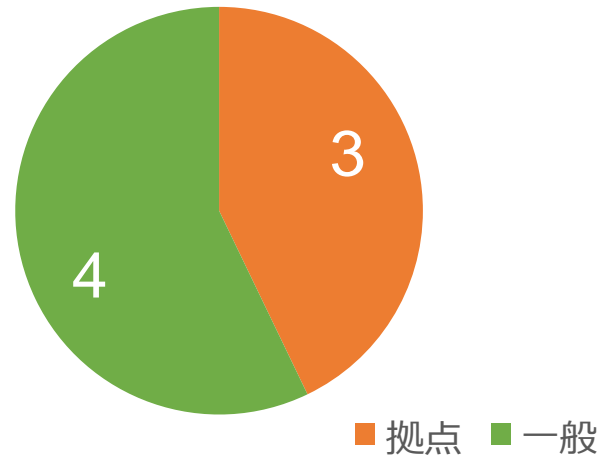
5日間研修：計11名の参加
（9名：小児科医師、
2名：他科医師）
拠点病院からの参加は2名。

月別参加者数

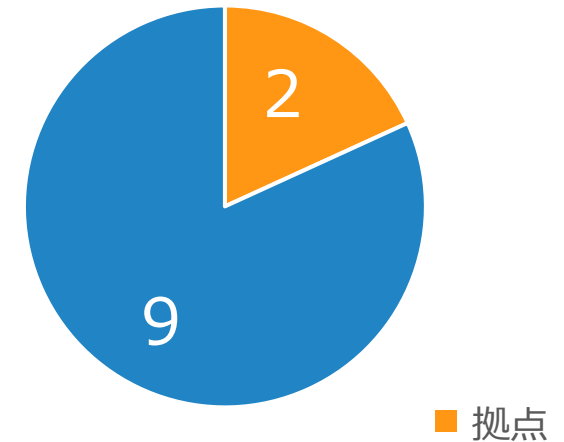
■ 小児科 ■ 他科



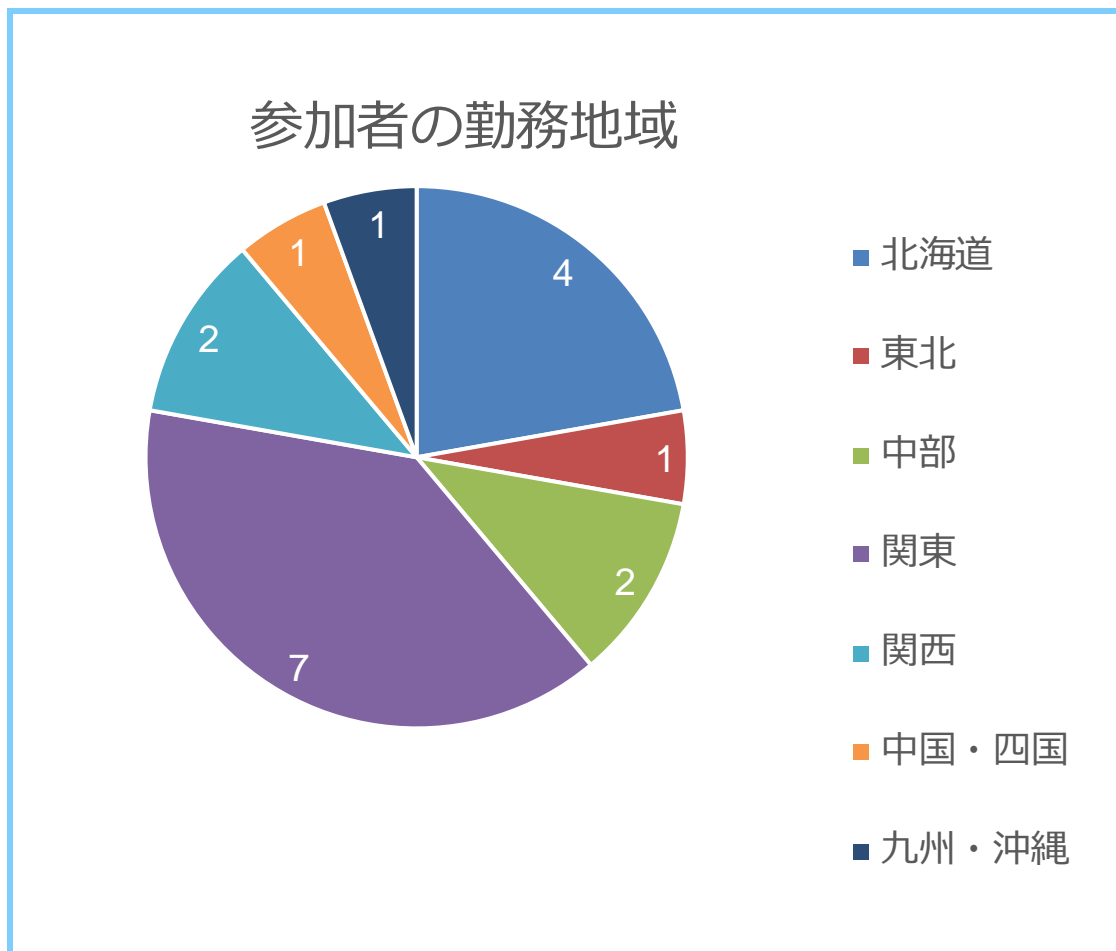
10日間 (n=7)



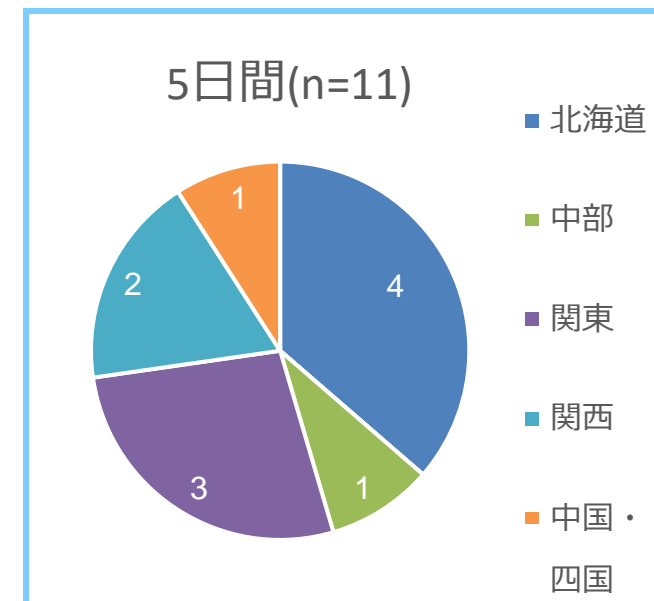
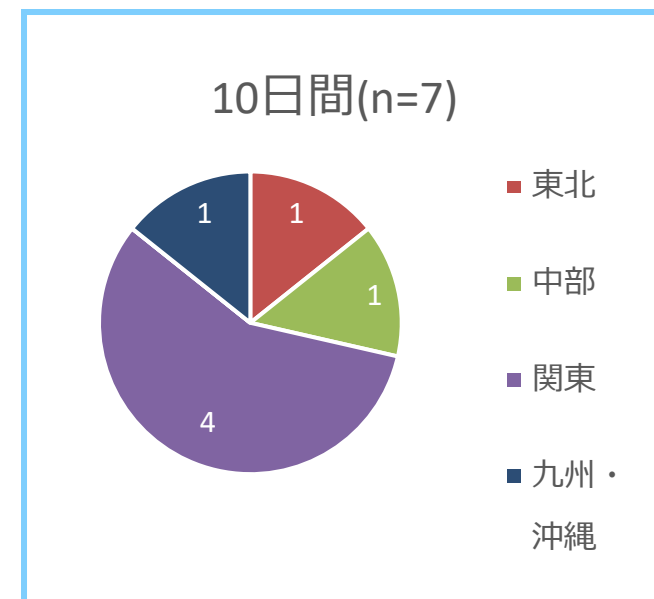
5日間 (n=11)



研修参加者の勤務地域



*3月迄のデータ（参加予定者のデータも含む）から集計



5日間研修では北海道からの参加者が4名。

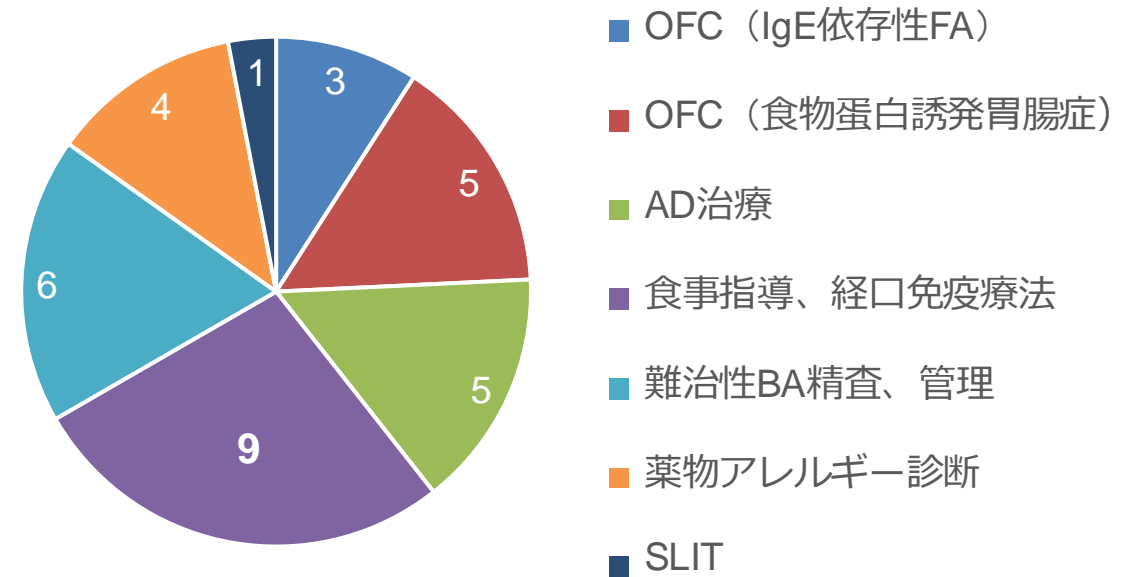
研修参加者のニーズ

27. 本研修で、とくに力を入れて研修したい分野は以下のいずれですか？優先順位が高いものを3つ選んでください。*

3個のオプションを選択してください。

- 食物経口負荷試験（IgE依存性食物アレルギー）の実践
- 食物経口負荷試験（食物蛋白誘発胃腸症）の実践
- アトピー性皮膚炎の治療
- IgE依存性食物アレルギーの食事指導（外来）、経口免疫療法
- 難治性喘息の精査、管理
- 薬物アレルギーの診断
- 舌下免疫療法
- その他

とくに力を入れて研修したい分野



2024年度12月までの研修参加者11名の結果を集計

研修結果の評価（1） 「知識・技能」

前後の回答が得られた研修参加者11名の結果を集計

食物アレルギー

1. 食物アレルギーの分類、鑑別疾患、診断法について説明できる
2. アレルゲンコンポーネントに基づいた食物アレルギーの診断ができる
3. (IgE依存性食物アレルギーについて) 食物経口負荷試験が必要な患者と保護者へ、目的、リスクを説明し、負荷食品の量、負荷時間間隔を設定して同意を取得することができる
4. 食物経口負荷試験患者への給食オーダー、指示、処置オーダー、物品、投薬準備を行うことができる。その際のメディカルスタッフとの連携について理解している
5. 1日数例の負荷試験症例の観察、チャート記載、即時反応への対応を行うことができる
6. 二重盲検法など特殊な食物経口負荷試験について理解し、実施できる
7. 食物経口負荷試験の結果を参考に、具体的な摂取量や摂取方法、頻度を含めた食事指導を行うことができる
8. 食物抗原の特徴に合わせた食事指導ができる
9. アナフィラキシーの症状・緊急時薬剤・受診目安を患者・家族に指導できる（アドレナリン自己注射薬の処方、使用法の説明）

アトピー性皮膚炎

10. アトピー性皮膚炎の診断基準を説明できる
11. アトピー性皮膚炎のバリア機能障害について説明できる
12. アトピー性皮膚炎の重症度評価ができる
13. アトピー性皮膚炎のスキンケア法（石鹸洗浄、外用薬塗布）を、必要なツールを準備して指導できる
14. アトピー性皮膚炎の悪化因子とその対策について説明できる
15. 寛解導入療法・寛解維持療法の概念について説明できる
16. アトピー性皮膚炎の外用薬による治療と、起こりうる副作用、副作用を回避する使用方法を説明できる
17. アトピー性皮膚炎に対する生物学的製剤を含めた全身療法の適応とその方法について理解している

予防

19. アレルギー疾患発症のリスク因子と予防法について説明できる

喘息

20. 気管支喘息の定義・診断基準・鑑別疾患について説明できる
21. 気管支喘息の重症度とコントロール状態を評価できる
22. 気管支喘息の悪化因子を挙げ、環境整備について指導できる
23. フローボリューム曲線の測定を正しく行い、呼吸機能検査の結果について患者（保護者）に説明できる
24. 呼気NO測定を正しく行い、結果を患者（保護者）に説明できる
25. 気道過敏性検査を行うことができる
26. 重症度に応じた喘息長期管理薬を選択できる
27. 気管支喘息治療における生物学的製剤の適応と使用方法について理解している
28. 患児の年齢に応じた吸入デバイスの選択と、気管支喘息の吸入療法について、患児（保護者）に指導ができる
29. 喘息急性増悪時の対応を患者（保護者）に指導できる
30. 舌下免疫療法について、服用法、効果、副作用の説明ができる

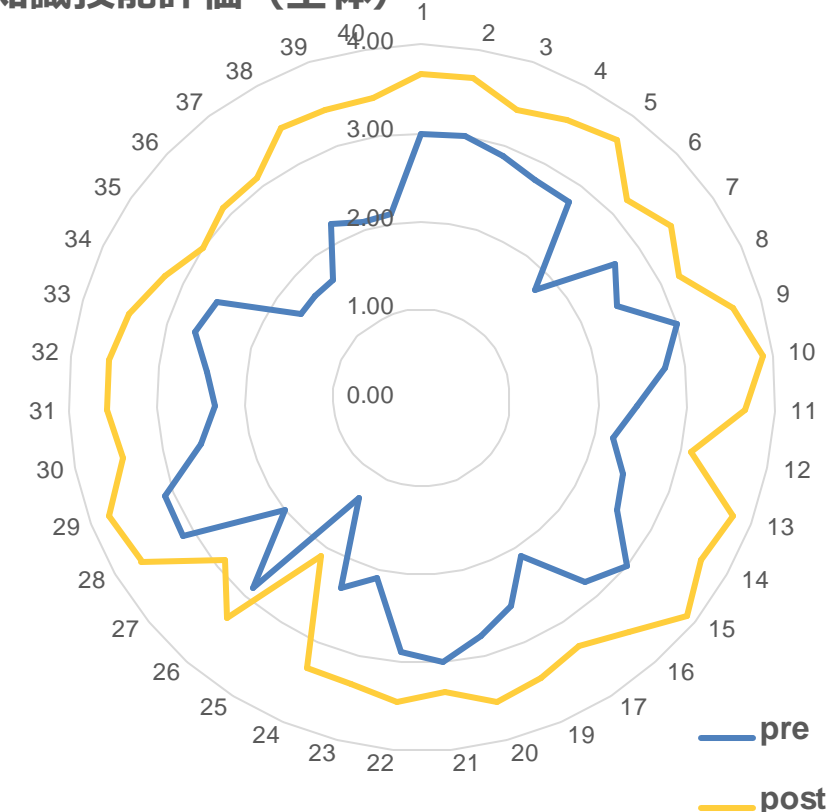
食物蛋白誘発胃腸症

31. 食物蛋白誘発胃腸症の分類を説明できる
32. 食物蛋白誘発胃腸症の診断法や鑑別疾患を説明できる
33. 食物蛋白誘発胃腸症の検査（経口負荷試験を含む）について説明できる
34. 食物蛋白誘発胃腸症の管理法について説明できる

薬物など

35. 薬物アレルギーの定義・分類・臨床症状について説明できる
36. 薬物アレルギー評価の流れについて説明できる
37. 薬物アレルギー（の疑い）をもつ患者に対して、今後の方針について適切に説明できる
38. 皮膚テストの分類、適応を理解している
39. 皮膚プリックテスト、皮内テスト実施時の注意点を挙げるができる
40. 皮膚プリックテスト、皮内テストの手技を理解し、実施できる

知識技能評価（全体）



研修評価方法

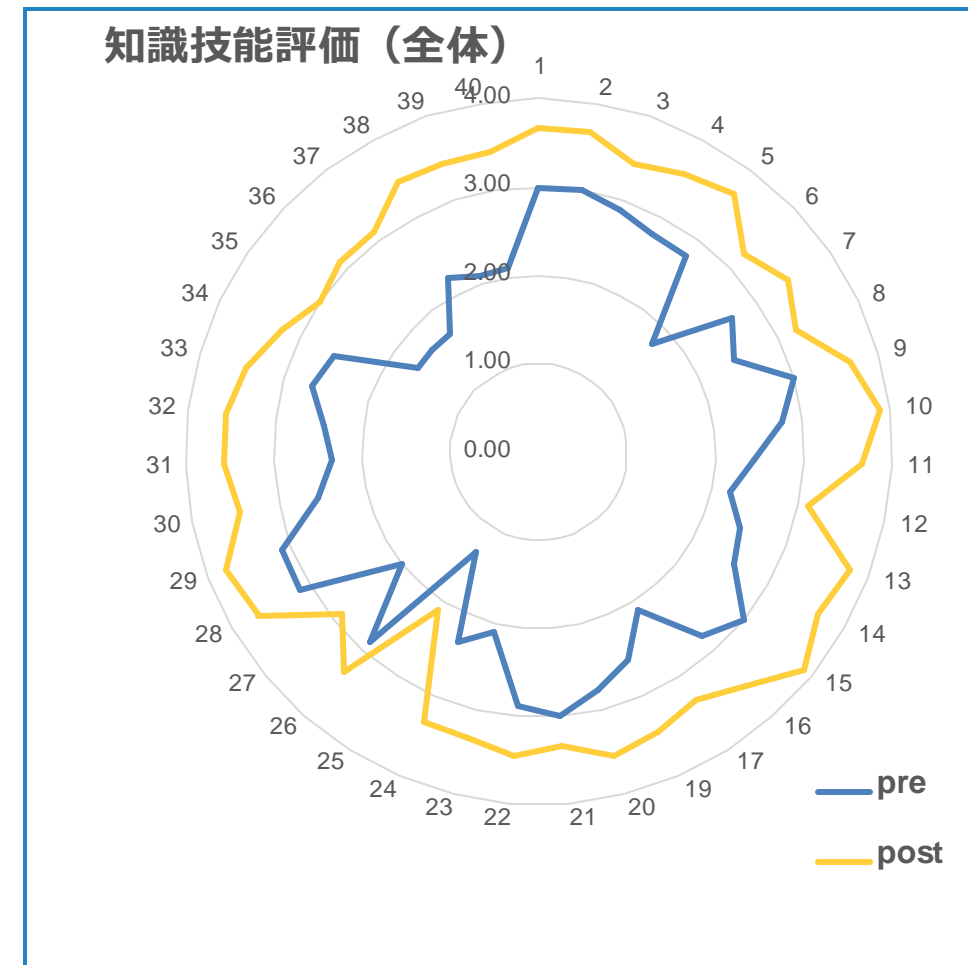
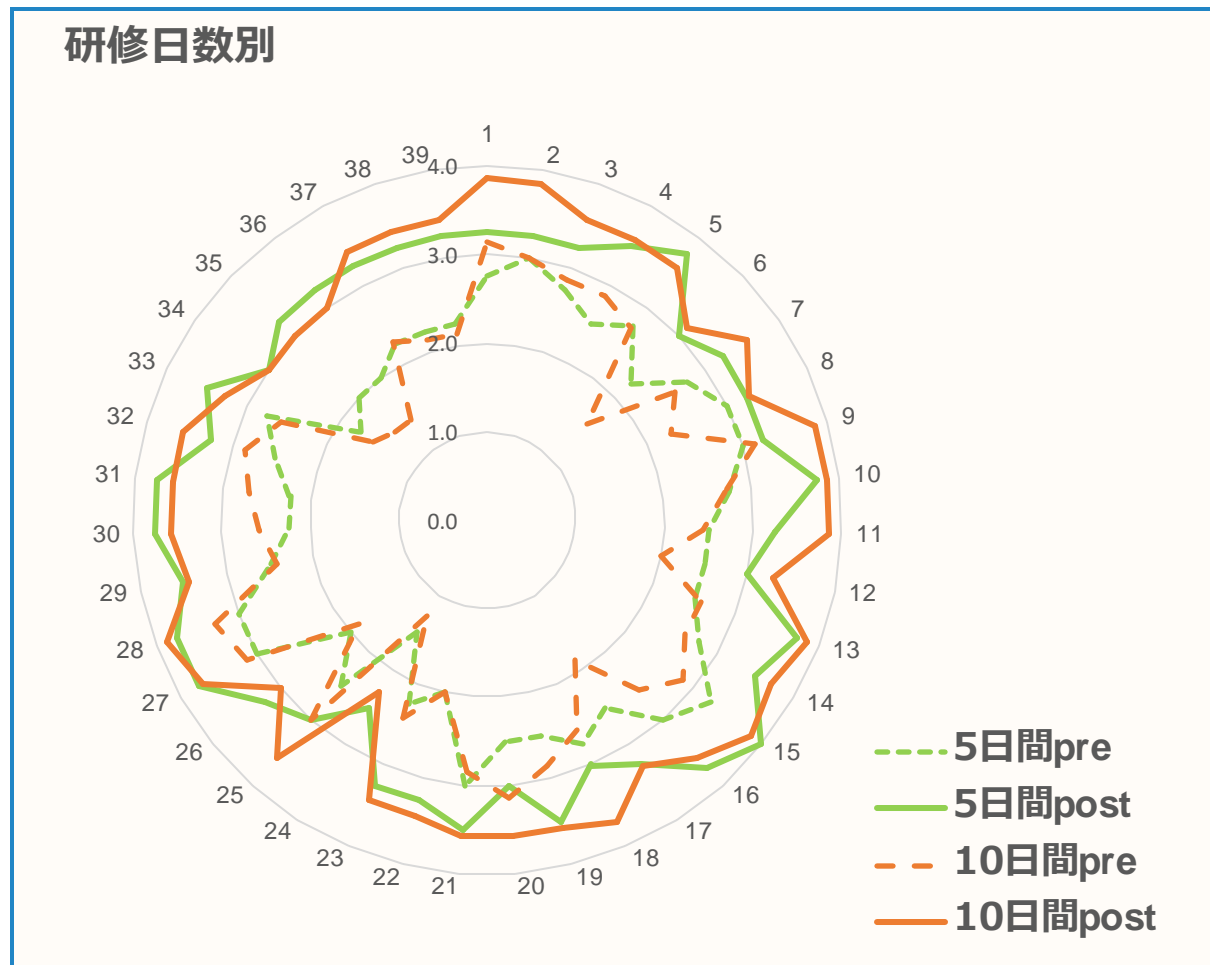
Kirkpatrickの4段階評価概念に基づき

- ・反応 (満足度)
- ・学習 (知識・技能)
- ・行動 (実際の行動変容) について
参加者自身が評価 (研修前・終了時)



研修結果の評価（1） 「知識・技能」

前後の回答が得られた研修参加者11名の結果を集計

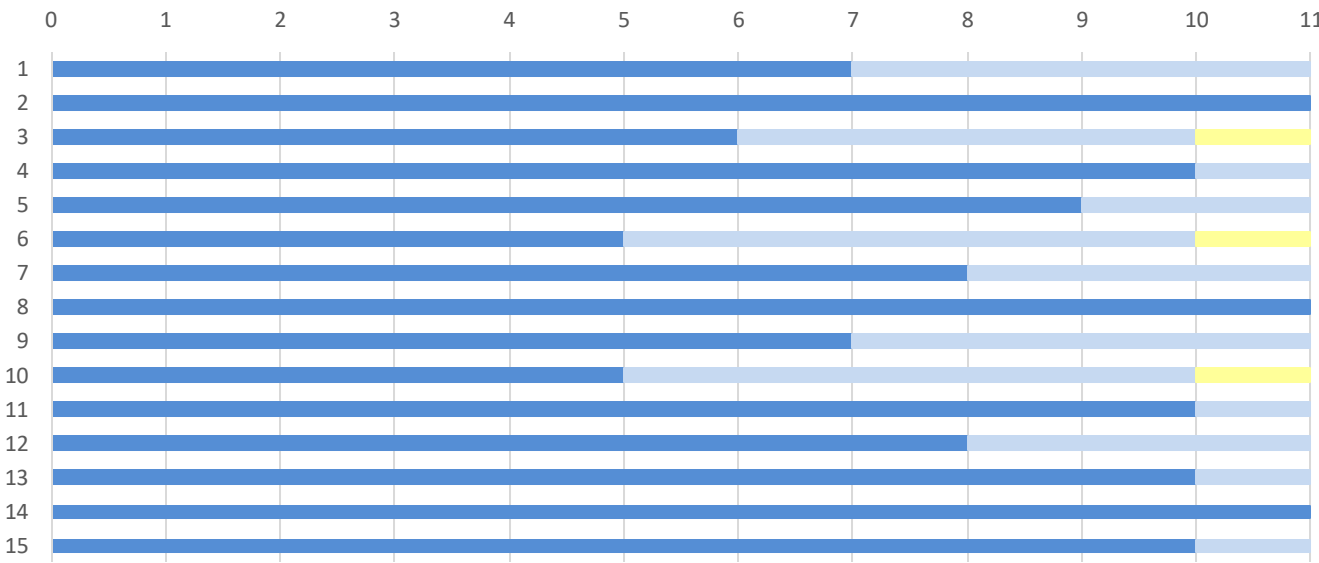


5日間研修プログラムにおいて、postに大きな差はなさそう

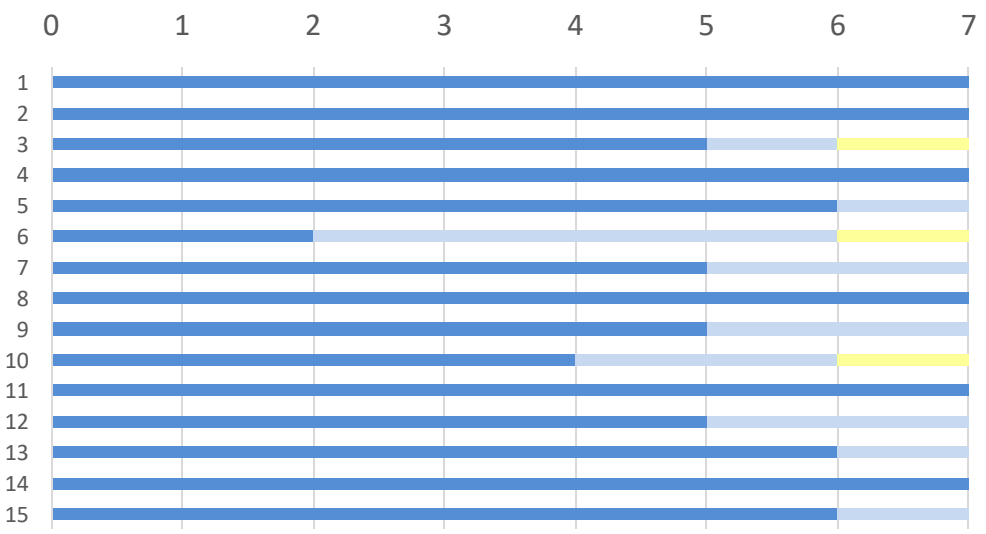
(5日間参加者では食物アレルギー、アトピー性皮膚炎におけるpreがやや高めの傾向)

研修結果の評価 (2) 「プログラム満足度」

プログラムの満足度 (全参加者)



■ そう思う ■ ややそう思う ■ あまりそう思わない ■ そう思わない



10日間研修のみ

- 1 到達目標の項目数は、研修日数に対して適切であった
- 2 到達目標の項目は、自分のニーズに対して適切であった
- 3 研修各日のスケジュールの量（忙しさ・暇さ）はおしなべて平均化すると適切であった
- 4 患者向けの教室見学は有用であった
- 5 看護指導（患者向け教室での看護指導を含む）の見学は有用であった
- 6 病棟における実習（スキンケアや食物蛋白誘発胃腸症の負荷試験など）の内容は十分であった
- 7 外来における実習（食物経口負荷試験や呼吸機能検査など）の内容は十分であった
- 8 本教育プログラム用に作成された教材の内容・量は適切であった
- 9 ワークシートの使用は有用であった
- 10 レクチャー中の模擬症例検討は有用であった
- 11 到達目標の項目毎に担当指導医がつく制度は有用であった
- 12 メンターの機能は有用であった
- 13 ヒアリングの機能は有用であった
- 14 研修参加中の医療スタッフの態度は友好的で質問しやすい雰囲気であった
- 15 参加に関する事務サポートは適切であった



研修結果の評価（2）「プログラム満足度」

【その他いただいたご感想】

- ・ **アレルギー疾患全体の管理が重要**であることを再認識し、一つ一つ丁寧な診療を心がけたいと思います。
- ・ アトピー性皮膚炎の診療、食物負荷試験の実施、EGIDなど他施設では稀な疾患の診療、外来診療の見学、保護者向け教室の見学と、大変充実しておりました。**当初の目的を達成できた**と感じております。
- ・ EBMを大切にしていることがよく分かり、将来貴院で最先端のアレルギー診療を勉強し、臨床研究を通して新たな**エビデンスを提供する側になりたい**と強く感じました。
- ・ 見学だけでなく各先生方からの**レクチャー**のおかげでアレルギー疾患全般の知識の整理ができ、見学の時に疑問に思ったことを質問する機会にもなり、ありがたかったです。研修は予定表通りでなく**フレキシブル**に対応していただけたことで様々な経験ができ勉強になりました。
- ・ 若手医師だけではなく、**すでにアレルギー専門医を取得している先生にとっても**、非常に有用な研修だと思っています。
- ・ 5日間研修をこれからも続けてほしいです。

その他の研修事業（A研修①）

令和6年度 成育アレルギー中心拠点病院オンラインセミナー

国立成育医療研究センター 第29回アレルギー臨床懇話会のご案内

今回のアレルギー臨床懇話会では、特別講演として富山大学医学部麻酔科学講座教授 高澤知規 先生にご登壇いただき、周術期アナフィラキシーに関するご解説を賜ります。高澤先生は周術期アナフィラキシーの疫学調査や全国診断支援システム（JESPA）を構築され、麻酔薬等アナフィラキシーの診療と研究においてわが国の第一人者です。今回、周術期アナフィラキシーの緊急時対応や診断のポイント、最新の話題についてご解説いただきます。大変貴重な聴講の機会ですので、ぜひ多数の先生方、メディカルスタッフの方々のご参加をお待ちしております。

対象 子どものアレルギーに関心のある医療従事者

日時 2024年8月29日（木） 19:00 ～ 20:30

会場 ハイブリッド開催（Zoomウェビナーでのライブ配信）
現地会場：国立成育医療研究センター研究所2階 セミナールーム

開会の辞 筈本明義 先生

一般演題 19:00～19:30 座長：臼井弘人先生・小林俊夫 先生

『当院における小児薬物アレルギー診療』

- ①「基礎疾患を有する小児における薬剤誘発試験の後方視的検討」
アレルギーセンター総合アレルギー科 萩野 紘平 先生
- ②「当センターにおける小児周術期アナフィラキシーの現状」
アレルギーセンター総合アレルギー科 石川 史 先生

特別講演 19:30～20:30 座長：福家辰樹 先生

『周術期アナフィラキシー』

富山大学医学部 麻酔科学講座 教授 高澤 知規 先生

閉会の辞 津田正彦 先生

※取得単位：日本小児科学会専門医 新更新単位iii（小児科領域講習）1単位
日本アレルギー学会専門医制度 2単位
日本医師会生涯教育制度 1.5単位（CC：7、32）

※事前のお申し込みが必須となっております。申込方法は裏面ご参照ください。

WEB参加：先着500名様までとさせていただきます。

<代表世話人> 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 大矢幸弘
<事務局> 福家 石川 早瀬（国立成育医療研究センターアレルギーセンター）
〒157-8535 東京都世田谷区大蔵2-10-1
電話：03-3416-0611 E-mail: allergy@ncchd.go.jp

主催：国立成育医療研究センターアレルギー臨床懇話会

第28回成育アレルギー臨床懇話会

令和6年8月29日（木）Zoomウェビナーによるライブ配信

一般演題：

「基礎疾患を有する小児における薬剤誘発試験の後方視的検討」

国立成育医療研究センター アレルギーセンター 萩野 紘平

「当センターにおける小児周術期アナフィラキシーの現状」

国立成育医療研究センター アレルギーセンター 石川 史

特別講演：「周術期アナフィラキシー」

富山大学医学部 麻酔科学講座 高澤 知規 先生

282名の方にご参加いただきました

その他の研修事業（A研修②）

令和6年度

第3回成育アレルギーメディカルスタッフセミナーのご案内

◆東京都アレルギー疾患治療専門研修◆

東京都では都内のアレルギー疾患医療の標準的治療、患者の日常生活や疾患管理の支援等に関する研修を実施しています。

今回は、相模女子大学栄養科学研究科・健康栄養学科教授 堤 ちはる先生をお招きし、乳幼児期の食生活や栄養などについて御講演をいただく予定です。ぜひ多数の先生方、メディカルスタッフの方々のご参加をお待ちしております。

◆対象：アレルギーに関心のある医療従事者

◆日時：2025年2月27日（木） 19:00 ～ 20:30

Zoomウェビナーでのライブ配信

（配信会場：国立成育医療研究センター 研究所2階セミナールーム）

◆プログラム

①『一般演題』：19:00～19:30

座長：福家辰樹 先生

国立成育医療研究センターアレルギーセンター 総合アレルギー科診療部長

「食物アレルギーと離乳食：導入プロトコルと実践的アプローチ」

国立成育医療研究センターアレルギーセンター 濱口冨香 先生

②『特別講演』：19:30～20:30

座長：山本貴和子 先生

国立成育医療研究センターアレルギーセンター 医長

「乳幼児期の食生活や栄養」

特別講師：堤 ちはる 先生

（相模女子大学栄養科学研究科・健康栄養学科 教授）

※事前のお申し込みが必須となっております。申込方法は裏面ご参照ください。

問合せ先：

<事務局>

福家辰樹 石川史 早瀬和子

（国立成育医療研究センターアレルギーセンター）

〒157-8535東京都世田谷区大蔵2-10-1

電話：03-3416-0611 E-mail: allergy@ncchd.go.jp

第3回成育アレルギー メディカルスタッフセミナー

令和7年2月27日（木）Zoomウェビナーによるライブ配信

※東京都アレルギー疾患医療拠点病院として開催

一般演題：

「食物アレルギーと離乳食：導入プロトコルと実践的アプローチ」

国立成育医療研究センター アレルギーセンター総合アレルギー科 濱口 冨香

特別講演：

「乳幼児期の食生活や栄養」

相模女子大学栄養科学研究科・健康栄養学科 堤 ちはる 先生



その他の研修事業 (A研修③)

成育アレルギー中心拠点病院 オンラインセミナー

月1回開催

臨床分野と基礎分野が隔月で担当

- **臨床** (アレルギー臨床勉強会)
担当：国立成育医療研究センター アレルギーセンター
- **基礎** (免疫アレルギーTerakoya勉強会)
担当：国立成育医療研究センター 免疫アレルギー研究部

2024 年度
医療従事者向け無料セミナー
今年度は木曜または金曜開催と
なりますのでご注意ください



セミナー・シンポジウムのご案内

成育アレルギー中心拠点病院オンラインセミナー



	参加者数
4月25日 (木) アレルギー臨床勉強会 「小児の気管支喘息 残された課題」 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 福家辰樹/佐藤未織	338人
5月17日 (金) 免疫アレルギーTerakoya勉強会 「妊娠、胎盤における自然免疫系の役割について」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 本村健一郎	289人
6月27日 (木) アレルギー臨床勉強会 「食物アレルギーの管理 ~免疫療法とPFASの最近のトピックス~」 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 豊國賢治/平井聖子	411人
7月5日 (金) 免疫アレルギーTerakoya勉強会 「急激に増加している食物アレルギーの特殊型 食物蛋白誘発胃腸炎とその類縁疾患」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 森田英明	385人
9月27日 (金) 免疫アレルギーTerakoya勉強会 「アナフィラキシーの病態生理について」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 松本健治	287人
10月24日 (木) アレルギー臨床勉強会 「The Latest Findings from Asian Birth Cohort Studies Implement into Clinical Practice」 名古屋市立大学大学院医学研究科 環境労働衛生学分野 大矢幸弘 Asan Medical Center, University of Ulsan College of Medicine Soo-Jong Hong	187人
11月29日 (金) 免疫アレルギーTerakoya勉強会 「食物アレルギーとしての好酸球性消化管疾患」 国立成育医療研究センター研究所 好酸球性消化管疾患研究室 野村伊知郎	288人
12月12日 (木) アレルギー臨床勉強会 「ガイドライン解説 アトピー性皮膚炎 蕁麻疹・血管性浮腫」 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 山本貴和子/石川史	388人
1月17日 (金) 免疫アレルギーTerakoya勉強会 「アレルギー疾患の診断と治療 今後の展望」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 森田英明	
3月14日 (金) 免疫アレルギーTerakoya勉強会 「新型コロナウイルス感染症の最新情報」 国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 松本健治	

同時通訳付き

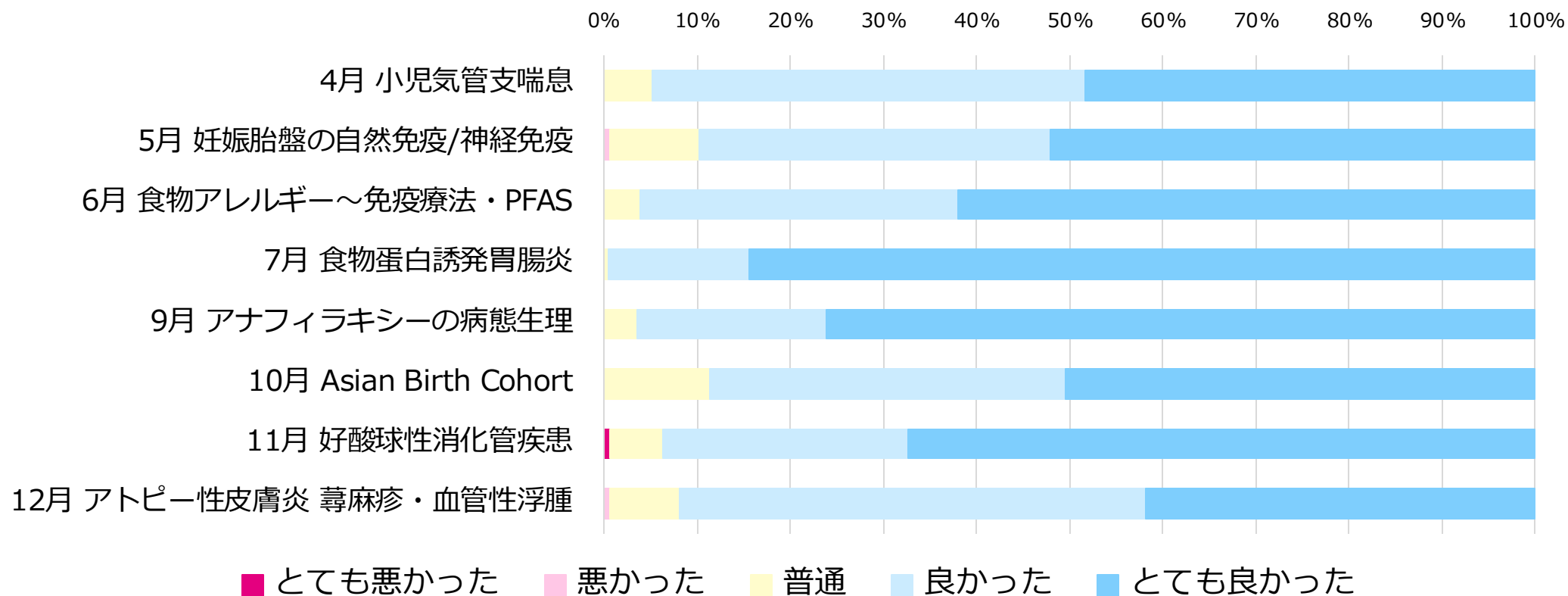


その他の研修事業（A研修③）

成育アレルギー中心拠点病院オンラインセミナー アンケート結果（4月～12月）



アンケート結果



マタニティオンライン教室



「生まれてくるお子さんのためのアレルギー予防オンライン教室」

インターネット情報に振り回されていませんか!?

アレルギー疾患をもつお子さんが増えてきています。妊娠中から正しいアレルギーの知識を身につけることが大切です。最近の研究情報からアレルギーに関する正しい知識を学び、お子さんのアレルギー疾患発症予防や早期発見に役立てるためのオンライン教室を開催しています。

開催日時 毎月第3金曜日 14時～15時

講師 国立成育医療研究センター アレルギーセンター 医師

開催方法 Microsoft TeamsによるWeb開催。

お申込みいただいた方へURLのご案内をさせていただきます。

参加対象者 ・妊婦さんとそのパートナーの方
・出産やお子さんに関わる職種の方（オブザーバーとしてご参加ください）

定員に達した場合

- ・当センターでご出産の方を優先させていただきますことご了承ください。
- ・ご希望の回にご参加頂けない場合は、事務局より他の回の日程をご案内させていただきます。

申込方法 下記QRコードよりアクセスし、申込フォームにてお申込みをお願いいたします。



- ◆URLをお知らせさせていただいた方以外にご参加いただけませんのでご容赦ください。
- ◆参加費は無料です。
- ◆当院HP「アレルギーセンター」ページ内「お知らせ」からもアクセスいただけます。

※ご不明点がございましたら、下記までお問い合わせください。

<問合せ先>

国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
アレルギーセンター 研究事務局
TEL:03-3416-0611
E-mail:allergy_research@nochd.go.jp

みなさまのご参加を
お待ちしております!



妊娠中から正しいアレルギーに関する正しい知識を学び、お子さんのアレルギー疾患発症予防や早期発見に役立てるためのオンライン教室を開催しています。

アレルギーポータル

アレルギーについて よくある質問 医療機関情報 アレルギーの本棚 災害時の対応 日本の取り組み 研修・講習会・eラーニング 都道府県のサイト

研修・講習会・eラーニング
行政・学校関係者の方向け

食物アレルギーセミナー ～共に創ろう 笑顔あふれる食の未来～（2022年度） 栄養士・食従事者の方向けのセミナーで、3/5（日）13:00から予定されています。オンライン、会場参加とも、申込は2/24（金）締切となっています。 くわしく見る	アレルギー相談員養成研修会 アレルギー疾患に関して患者やその家族と接する機会が多いアレルギー専門医以外の医師、看護師、保健師、薬剤師、栄養士などを対象としています。 くわしく見る	食物アレルギーセミナー “安全で安心な子どもの笑顔を守る 食の未来”（2022年度） 保育者の方向けのセミナーで、11/27（日）12:30から予定されています。Web参加、会場参加とも、申込は11/8（火）締切となっています。 くわしく見る
生まれてくるお子さんのためのアレルギー予防オンライン教室 妊娠中から正しいアレルギーに関する知識を身につけていただくため、定期的に開催されています。主に妊婦さんとそのパートナーの方が対象となっています。 くわしく見る	文部科学省補助事業アレルギー講習会 （学校における普及啓発講習会） 学校現場においてのアレルギー対応の充実に資するための講習会です。 くわしく見る	食物アレルギーによって起こる症状と治療について 食物アレルギーの症状とその治療法を学ぶ研修用スライドです。アナフィラキシーに対処するための動画も掲載されています。 ダウンロードする

電話相談事業 2024年の実績

期間：2024年1月1日～12月31日の12か月間

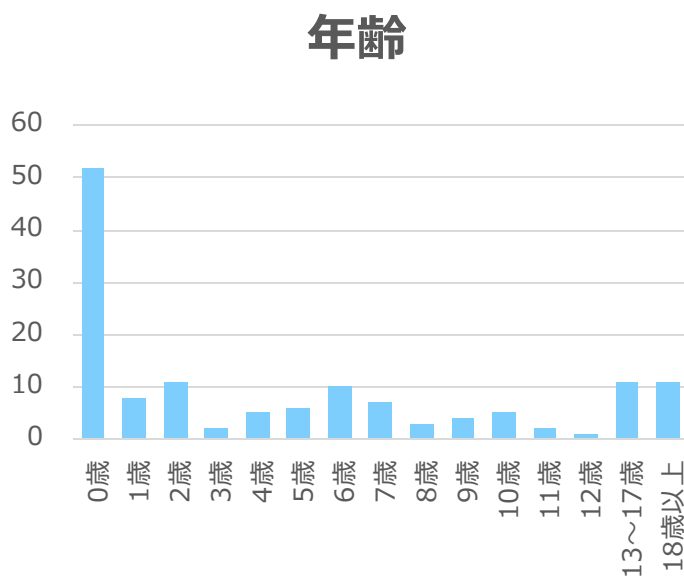
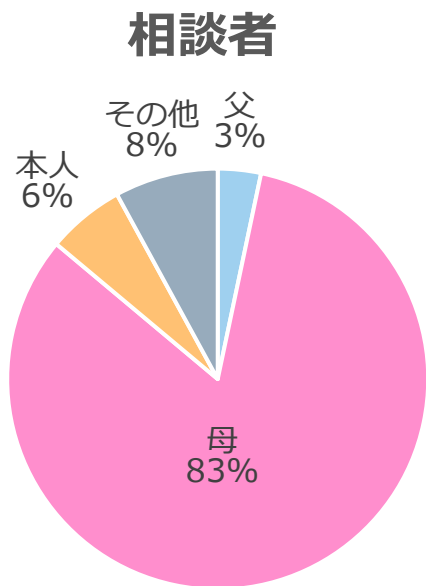
相談件数：151件（前年176件）



【概要】

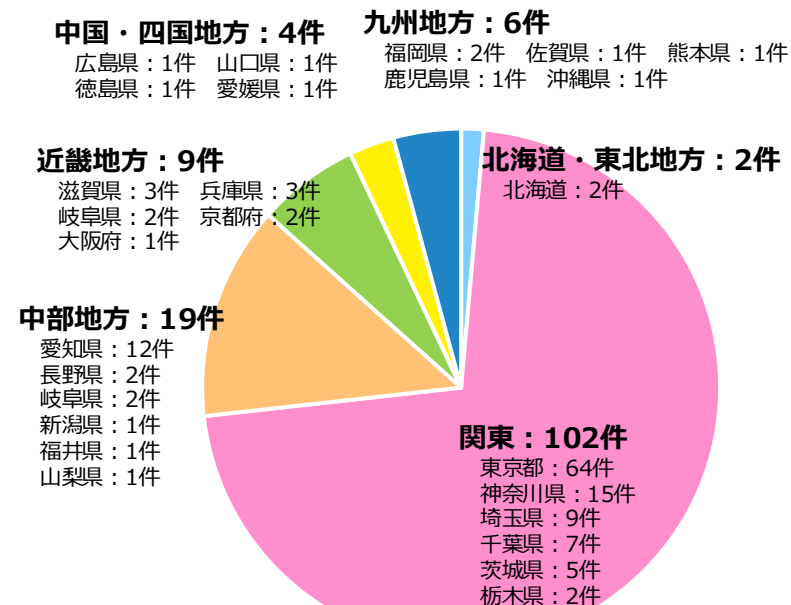
- 患者・家族からの電話相談事業
- 医師による、週2回、1回1時間の電話相談
- 相談時間は1回につき15分以内とする

相談者の背景



26都道府県から相談あり

居住地



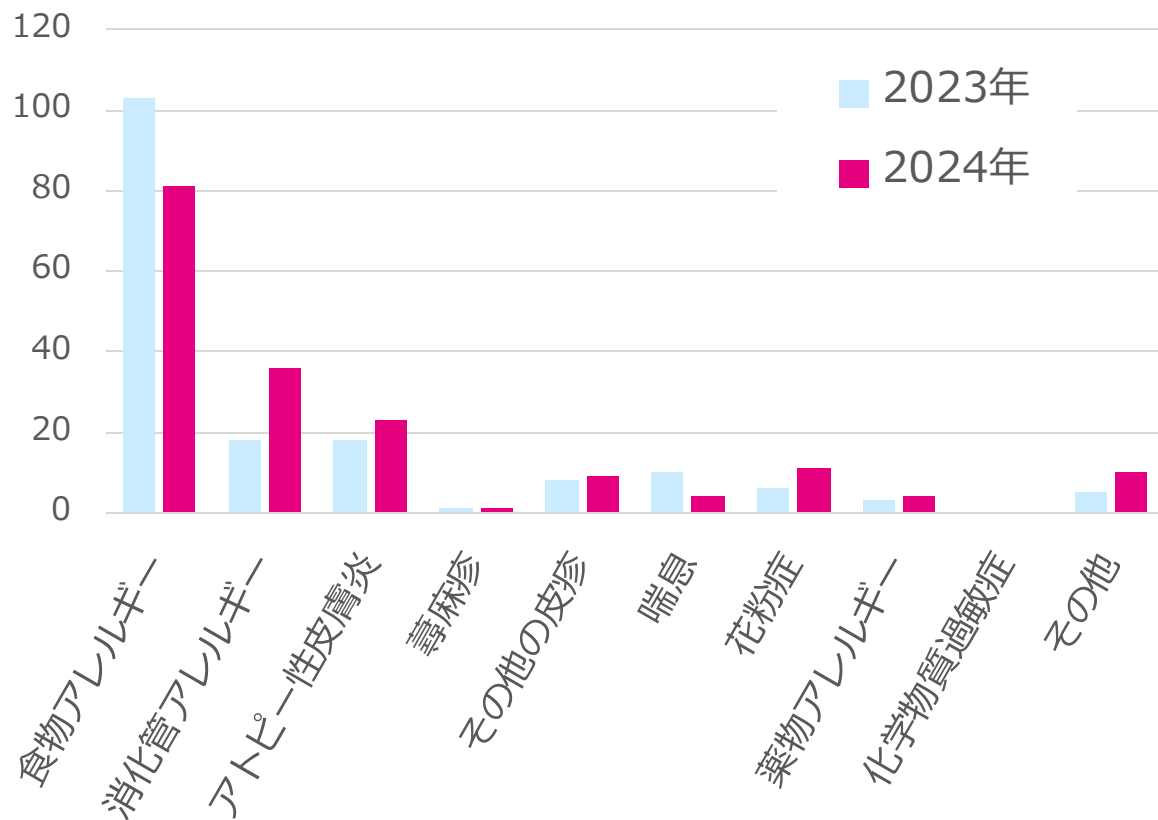
電話相談事業 2024年の実績

期間：2024年1月1日～12月31日の12か月間

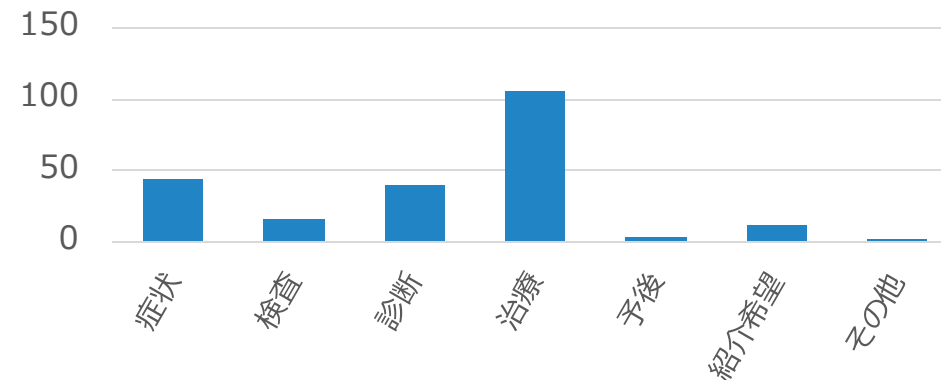
相談件数：151件（前年176件）



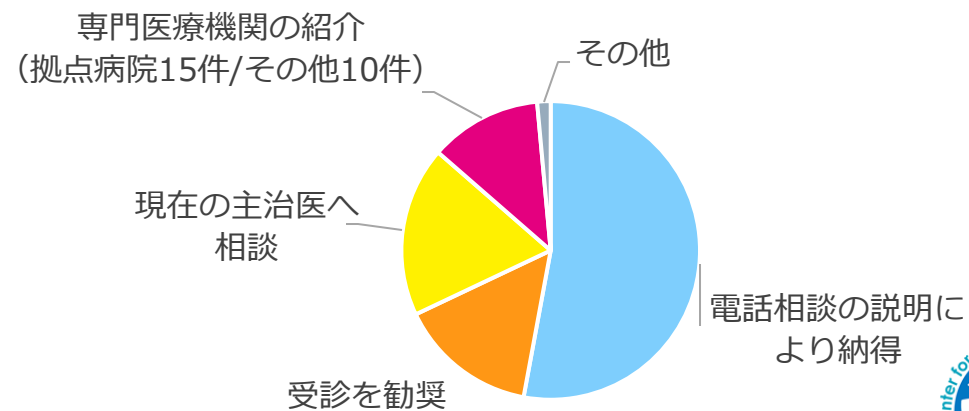
相談疾患



相談内容



相談結果



(追) 免疫アレルギー疾患患者に係る 治療と仕事の両立支援モデル事業

「アレルギーセンター患者支援カンファレンス」

日時：月1回（第1火曜日PM）定期開催
 参加：医療ソーシャルワーカー、医師など
 （両立支援コーディネーター基礎研修者含む）

内容：主に入院患者を中心に、

- ・ 就労支援・就労継続支援
- ・ 経済的支援（医療費助成等の案内含む）
- ・ 社会復帰・復学支援（学校との連携等）
- ・ 心理社会的支援（育児支援含む）
- ・ 退院支援（退院後の社会資源）
- ・ 受診受療支援（他院受療への連携等）
- ・ その他家族への支援
 などについて情報交換

外来配布用チラシ⇒

お子さん（またはご自身）のアレルギーのために生活やお仕事に支障が出ていませんか？

■当センターは厚生労働省「免疫アレルギー疾患患者に係る治療と仕事の両立支援モデル事業」に取り組んでいます！
 厚生労働省は、「事業場における治療と仕事の両立支援のためのガイドライン」を発表し、がんなどの疾病を抱えた患者さんが治療のために仕事をやめることのないよう、職場における取組みを支援しています。

■アレルギー疾患の患者家族においても支援が必要とされています
 近年の調査では、アレルギー疾患のために就職が不利になったり仕事内容が制限されたり、仕事のせいで通院ができず症状が悪化する方や、お子さんのアレルギー疾患のために仕事が制限されてしまう場合が一定数あるという問題が明らかになっています。

■治療と仕事の両立や、生活でのお悩みなど、両立支援コーディネーターがお手伝いします
 成育などのアレルギー疾患医療拠点病院では「両立支援コーディネーター（ソーシャルワーカー）」を中心に、患者さんやご家族の個々の治療、生活、勤務状況に応じた、治療と仕事の両立に関する支援を行っています。

両立支援コーディネーター（ソーシャルワーカー）は、治療と仕事の両立を希望する患者さん（保護者さん）の、治療や業務等の状況に応じた必要な配慮を整理・情報共有し支援します。
ご希望の方は、お気軽に患者相談窓口（1階）までご相談ください。

アレルギーセンター総合アレルギー科 外来

治療と仕事の両立が
 当たり前の社会に！

治療と仕事の両立支援
アラタシキ。
 ムービー・マンガ公開中！

(ウラ)

参考) 気管支ぜんそくやアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患。職場や職場環境によっては、症状が悪化するだけでなく、業務多忙で、定期的な治療・通院が難しくなる患者もいる。そこで、厚生労働省は治療と仕事の両立へ支援するモデル事業を2023年度に実施している。

厚生労働省がモデル事業

アレルギー疾患

モデル事業のイメージ

地域の医療機関
 患者・家族
 企業・家族
 両立支援コーディネーター

主診医（専任医）
 両立支援コーディネーター
 職場情報共有

病状治療計画の共有
 両立支援コーディネーター
 職場情報共有

厚生労働省の資料を基に作成

「仕事量や内容が制限されたりしたいと思っていた仕事が達成できなかったことがあるか？」

アレルギー疾患	いいえ	どちらか	はい
アトピー性皮膚炎	34.8%	10.6%	29.7%
気管支ぜんそく			
アレルギー性鼻炎			

職場環境の改善につながる

「アレルギー疾患患者の職場環境改善に関する調査結果」

アレルギー疾患患者の職場環境改善に関する調査結果は、アレルギー疾患患者の職場環境改善に関する調査結果を基に作成されています。

アレルギー疾患患者の職場環境改善に関する調査結果は、アレルギー疾患患者の職場環境改善に関する調査結果を基に作成されています。

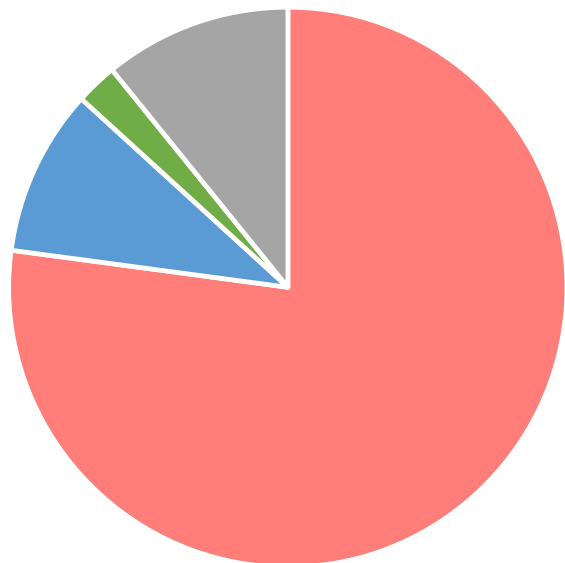
アレルギー疾患「治療と仕事の両立支援」に関するアンケート

期間：2024年11月～12月

対象：アレルギーセンター初診患者

年齢：0～18歳、中央値5歳（IQR: 1-9）

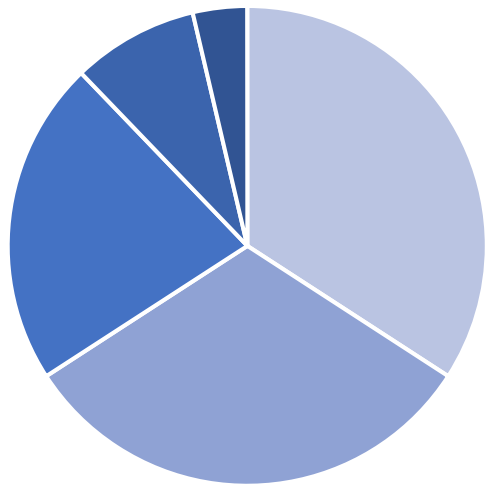
回答者



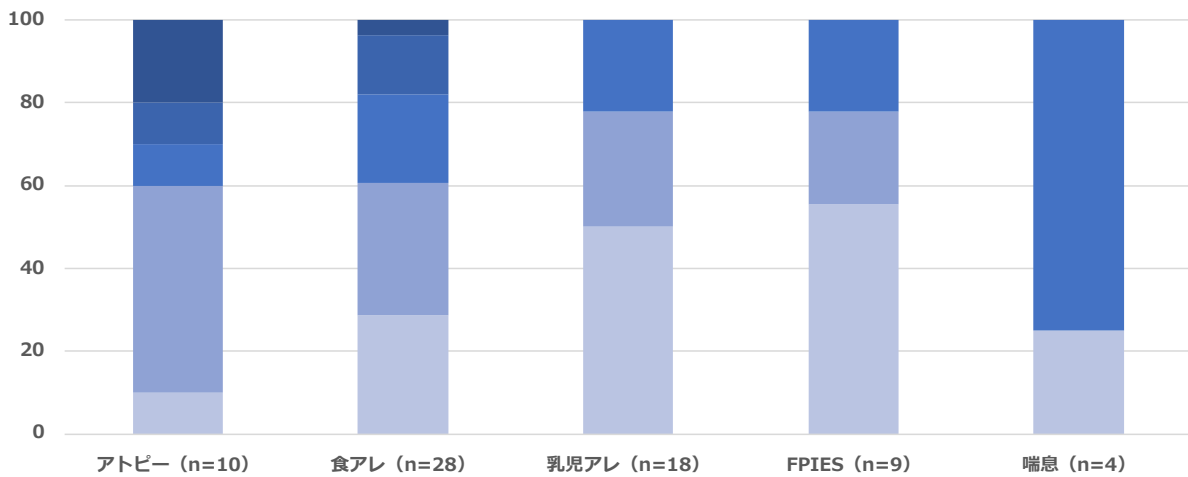
■ 母親 ■ 父親 ■ 本人 ■ 不明

1. お子さんやご自身のアレルギーのために、あなたの仕事や就労に何らか制限が生じると感じることはありますか？
(いつもある ・ よくある ・ 時々ある ・ あまりない ・ 全くない)
2. 上記で「ある」を選んだ方へ：具体的にどのような影響があるか、教えてください。
3. お子さんのアレルギーのために、お子さんの通園・通学に支障があると感じることはありますか？
(いつもある ・ よくある ・ 時々ある ・ あまりない ・ 全くない)
4. 上記で「ある」を選んだ方へ：具体的にどのような影響があるか、教えてください。
5. 両立支援コーディネーター（ソーシャルワーカー）へ相談したいと思いますか？
(相談を希望する ・ 興味はあるが今は必要ない ・ 特に希望しない)

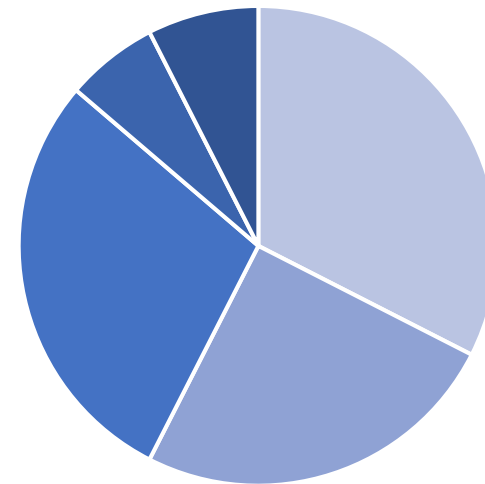
お子さんやご自身のアレルギーのために、
あなたの仕事や就労に何らかの制限が生じると感じることはありますか？



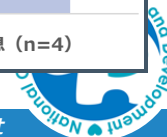
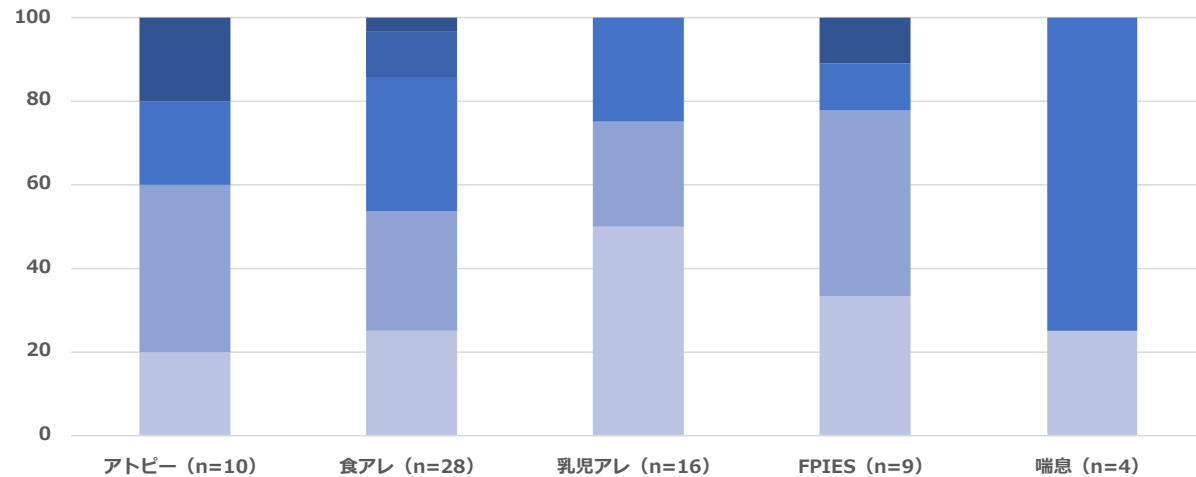
■ 全くない ■ あまりない ■ 時々ある ■ よくある ■ いつもある



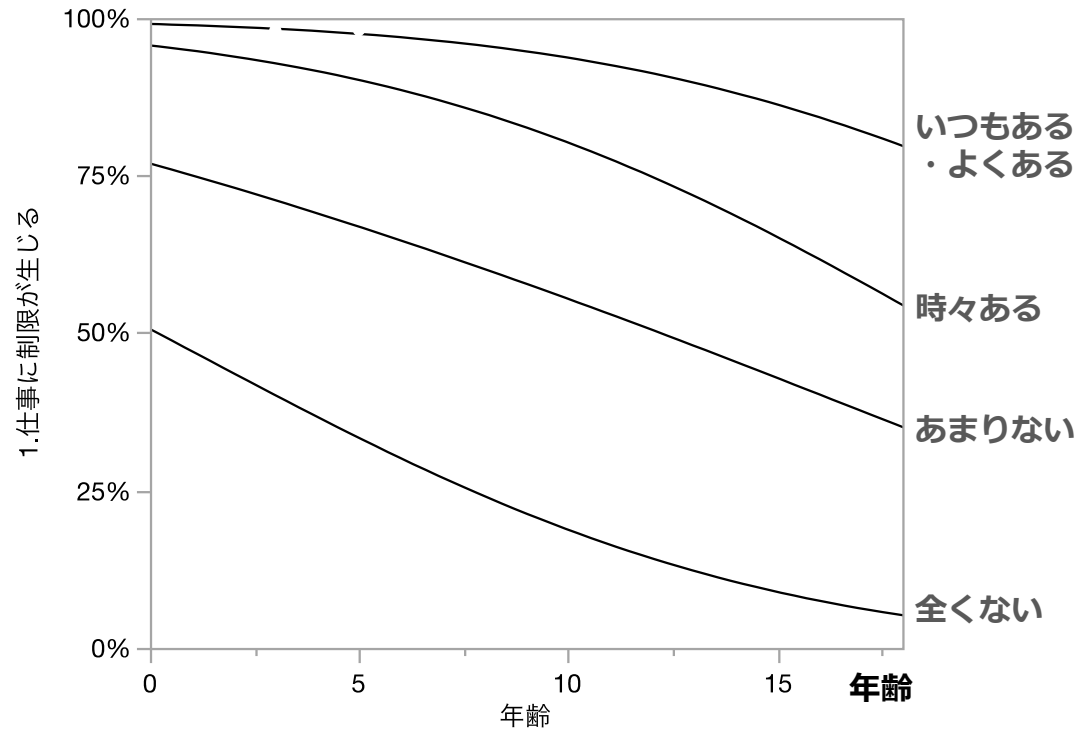
お子さんのアレルギーのために、
お子さんの通園・通学に支障があると感じることはありますか？



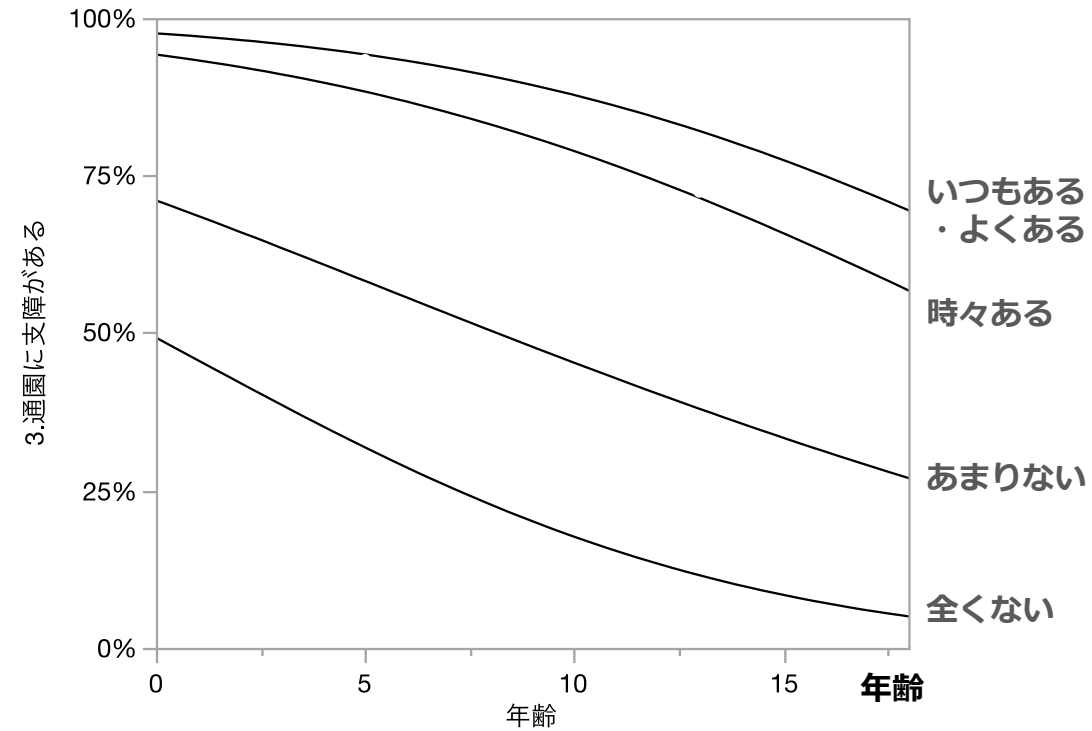
■ 全くない ■ あまりない ■ 時々ある ■ よくある ■ いつもある



お子さんやご自身のアレルギーのために、
あなたの仕事や就労に何らかの制限が生じると感じることはありますか？

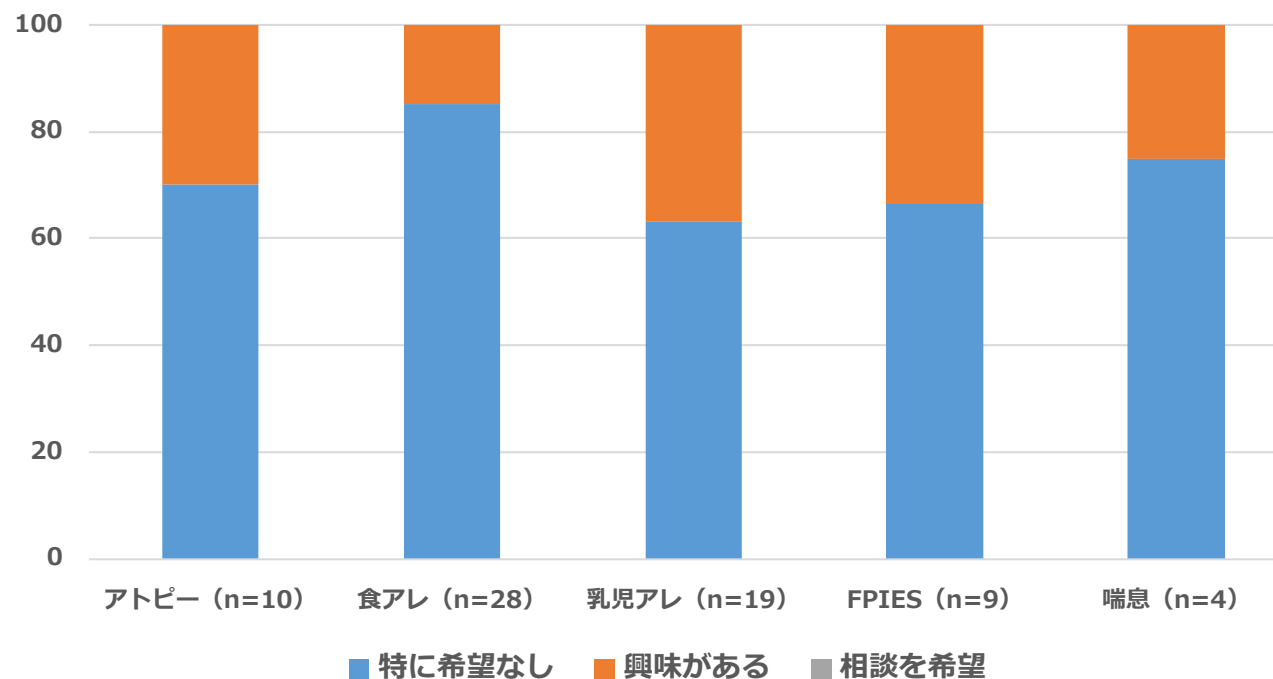
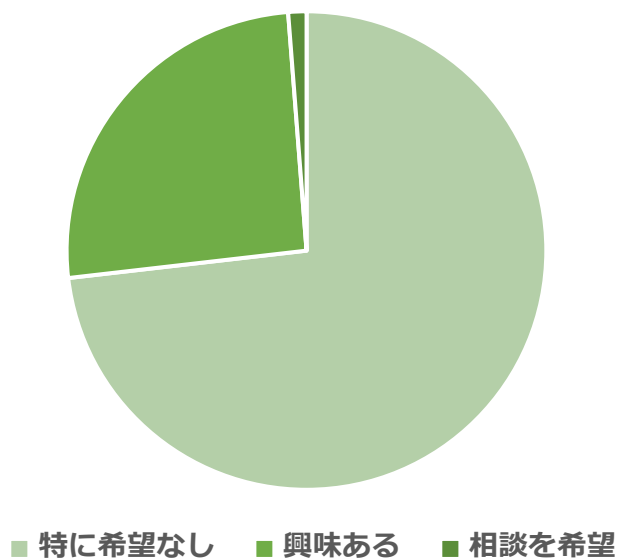


お子さんのアレルギーのために、
お子さんの通園・通学に支障があると感じることはありますか？



- アトピー性皮膚炎＞食物アレルギーにおいて仕事や通園通学に支障を感じる傾向
- 年齢が上がるほど、支障を感じる傾向

両立支援コーディネータへ相談したいと思いませんか？



自由意見

＜勤務への影響＞

- 通院のために仕事を休まないといけない・仕事の調整が必要
- 仕事を休むことで周りに迷惑を掛けてしまう
- 受診付き添いのため就業時間を長くできない
- 朝のスキンケアのために早朝の出勤に影響が出る
- 皮膚症状があると保育園からお迎えの電話がくる
- 何かあった時に直ぐに行けるようにすると就労することが難しい
- 食事の時に呼び出しが多く仕事の調整が必要
- アレルギーを心配され、「念のため」「何かあったからでは遅い」と迎えにくるようになわれ、翌日も「様子を見て」と預かってもらえず、働き方を変えるため転職した。
- アレルギーがあるため入園を渋られた

＜看病や自身の症状による影響＞

- 夜の咳がひどい時は親子共に寝不足になる
- 夜間の看病で翌日寝不足で仕事をするようになる
- 子どもが喘息で体調不良のときは仕事を休まないといけない
- 睡眠不足が続くと体力的なきつさがある
- 自分の喘息が出ている時は歩いても苦しくなり遅刻してしまう
- 鼻炎がひどい時に仕事がはかどらない
- 仕事に集中できない・働くことが出来ない

＜仕事による治療への影響＞

- 仕事が忙しく、休日しかアレルギーの食物を試すことができない
- 仕事のため、家での摂取のタイミングが困難
- いつもお弁当を作らなければならないので大変

他、多数

まとめ

- ✓短期研修（B研修）では引き続き現地対面式で開催。ニーズの変化に伴い、新たに5日間研修を試験的に実施した。学習効果に大きな差はないものの、研修満足度は10日間研修で高い傾向にあった。
- ✓電話相談事業では引き続き消化管アレルギーに関する相談が増加。
- ✓アレルギー疾患により3人に1人が仕事や就労に制限が「ある」と回答し、特にアトピー性皮膚炎や、年齢が上がるにつれ増加傾向にあった。3/4に両立支援コーディネータへの相談に興味を示した。